

# 103-294

## 問題文

26歳男性。統合失調症の診断を受け、ハロペリドールを処方されていた。手の震え、体のこわばりやアカシジア(静座不能)などの副作用の出現により服薬を自己中断するため、入退院を繰り返している。3ヶ月前から以下の処方に変更となった。

(処方)

オランザピン錠 10 mg    1回1錠 (1日1錠)

1日1回    就寝前    7日分

3ヶ月前の検査データ：体重 68kg、空腹時血糖 110mg/dL、LDL-C(低密度リポタンパク質コレステロール) 130mg/dL、HDL-C(高密度リポタンパク質コレステロール) 47mg/dL、TG(トリグリセリド) 120mg/dL

現在、患者の精神状態は安定しているが、食欲が亢進し、栄養指導しても過食になることが多い。

現在の検査データ：体重 76kg、空腹時血糖 110mg/dL、LDL-C 138mg/dL、HDL-C 42mg/dL、TG 150mg/dL

服薬指導の際に、患者から「体重増加は困るので、薬を変えて欲しい」との訴えがあった。

## 問294

この患者の病態及び治療に関する記述のうち、正しいのはどれか。1つ選べ。

1. オランザピンの服用により糖尿病を発症している。
2. 錐体外路症状は、漏斗下垂体のドパミン神経の過剰興奮によって起こる。
3. オランザピンはハロペリドールよりも錐体外路症状を起こしにくい。
4. オランザピンによる悪性症候群の発症はない。
5. 体重増加はオランザピンに特徴的な副作用であり、他の抗精神病薬では認めない。

## 問295

薬剤師が患者の訴えを医師に伝えたと、代替薬を検討することになった。副作用発現の観点から推奨できる薬物として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

1. クロルプロマジン塩酸塩
2. クロザピン
3. ケチアピンフマル酸塩
4. スルピリド
5. アリピプラゾール

---

## 解答

問294：3問295：5

## 解説

### 問294

問295 とまとめて解説します。

### 問295

問294 について、 選択肢 1 ですが

空腹時血糖が 126mg/dL 以上ではないため、 本試験時の基準に照らした時に 糖尿病の発症とはいえません。 よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

錐体外路症状は、ドパミン神経の「抑制」により引き起こされます。また「黒質線条体系」です。漏斗下垂体ではありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は、正しい記述です。

選択肢 4,5 ですが

「ない」といいきれず誤りと いえるだろうと判断して よい選択肢だと考えられます。重大な副作用として、悪性症候群は 添付文書に記載があります。また、体重増加は クロザピン、クエチアピン、クロルプロマジンなどでも認められることがあります。ちなみに、アリピプラゾール は 抗精神病薬の中では 体重増加が起きにくい薬として知られています。

以上より、問294 の正解は 3 です。

問295 は、前問選択肢 5 の解説より、正解は 5 です。